



# 緑肥・緑化の部屋 11

～環境保全の実践を目指して～

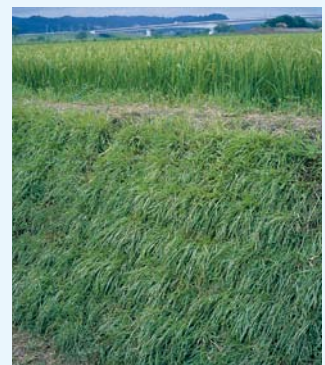
タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

## Q

最近、水田<sup>けい はん</sup>畦畔などのグランドカバーで、「ティフ・ブレア」という名前をよく聞きますが、これは今までのノシバやコウライシバとどのように違うのですか？

## A

「ティフ・ブレア」は、センチピードグラス（和名：ムカデシバ）の改良種で、ノシバ、コウライシバと同じ暖地型のイネ科芝草です。夏場の気温の高い時は旺盛に生育し、冬場には茶色くなり休眠します。また、春になれば再び緑になります。ノシバなどと比べて一番の違いは、「ティフ・ブレア」には雑草を抑える力があることです。太いランナーが地面を何重にも覆い、雑草の生育を抑えることと、植物体から抽出される化学物質が雑草の生育を阻害するということがいわれています。



このセンチピードグラスには悲しい逸話があります。

アメリカ農務省の最初の植物探検学者で、フランク・N・マイヤー博士（1875-1918）という方がいました。彼はその生涯で4回の中国での植物採取旅行に出掛けましたが、43歳の時の4回目の植物採取旅行で、自らのボートとともに行方不明になってしまいました。

その後しばらくして彼のボートだけは見つかりましたが、彼の姿は結局見つかりませんでした。ボートの中にはトランクが残され、その中には小さな包みがありました。

包みの中には植物のタネが数粒入っていました。これがアメリカにもち帰られ、現在のセンチピードグラスとして紹介されたのです。その後、そのセンチピードグラスが改良されたものが「ティフ・ブレア」です。

センチピードグラスは原産地が中国で、ちょうど稲の起源と同じ地域になるので、「ティフ・ブレア」はイネとの相性がよく、水田の畦畔でも広く利用されるようになりました。また、最近ではカメムシの発生を抑制するというデータも発表され、ますます注目が高まっています。

Frank N. Meyer

**雑草抑制芝草！  
畦畔・グランドカバーに！**

**改良センチピードグラス ティフ・ブレア®**

PVP (登録名：TC312)

〈播種期〉

中間・暖地：4月中旬～7月、冷涼地：5～6月

〈播種量〉

畦畔用および牧草用：5～10g/m<sup>2</sup> (5～10kg/10a)

芝生用：7～12g/m<sup>2</sup> (7～12kg/10a)

覆土・鎮圧 播種後、5～10mmぐらいの覆土を行い板などで鎮圧する。

